

ライフ イズ ア カスタム

人間は習慣の産物である

— よいクセを身につけるために!! —



高井法博会計事務所所長
TACITグループ関連12社 代表

税理士 高井法博

一向に景気が良くなる兆しのない中で新しい年を迎えた。

昨年は、私の生涯の同志と共に事務所を作ってきた元・監査統括部長 武藤貞明君を失った。所内の私の部屋には彼の写真を掲げ朝晩お勤めをし、胸のポケットにも彼の写真を忍ばせ、楽しいことや悲しいことを報告し、一挙手一投足を彼が見ているとの気持ちで、彼が悲しむ行動をしたり結末にはいけないとできる限りの努力をしてきた。現世から彼は去って行ってしまったが、今も私に付いていくれ一緒になって描いてきた理想的な会計事務所、ビジネスサポート業の夢に向かって、今年も彼と共に頑張っていこうと、新年を迎え心新たにしている。

不況も本当に長く続いている。会社の業績が悪いのを不況や政治や他人のせいにし、嘆きのうちに日々を過ごしているようでは社員に対しても申し訳ない。何故なら、今のこの一瞬一瞬は生涯只の一度しかない「二期一会」の世界であるからで、即ち人生は一度でありしかも有限である。

人生如何にどのような考えで生きるかは、まさに決定的に重要だと思ふ。

一、企業は不況では倒れない。私の師である竹内日祥上人は、「企業が不況で倒れるというがそれは嘘である。企業は不況くらいでは絶対に倒産しない。」と言われる。そのような企業は遅かれ早かれ倒産する宿命にあったのが、不況によって後ろから押され命運が尽きただけである。

上人は更に言う、企業は外部から崩されるのではなく内部から崩れる、と。いくら不況でも、経営者が正しい経営判断をし、正しい経営理念方針に基づき思想的に一致団結できるのであれば、苦しい時ほど相向き合い肩と肩を合わせ助け合い外へ攻めて出れる。

ドイツの組織論『ゲメインシャフト』と『ゲゼルシャフト』のうち、企業は、目的実現・思想変革に基づく組織であるゲゼルシャフトでないとな成長存続はしれないと言われる。また、ゲゼルシャフトという組織の中には入りたいたいと言う人以外は入れてはいけない。それは、趣味や地域の会とは違うからで、その思想価値観が相容れない者や望まない者はいくら記憶力に秀でていても入れることにより他の者まで不幸にする。出口は空けておくべきである。この非常時に、組織を乱すような考えが

一定量越えた時に企業は内から崩れると言われる。二、『脚下照顧』を徹底的に行おう。私がお寺の次男坊である。小さな時からこの文字をよく見ていた。親父が『脚下照顧』の文字を書き下駄箱の横に貼りつけていた。短絡的には、家にかかる時は靴をしっかりと揃えてあがりなさいと言うような意味だが、深く考えたとあらゆる事象に当てはまりもつと深く重い意味がある。現在の企業の状況が思わしくない原因を他に求めるのではなく十分に分析し、まず自身をしっかりと見直し反省をし原因を追求する必要がある。そして、今後どうするかである。この厳しい経済状況の中で大変な業績を上げている方を捜してみよう。一様に、とにかく勉強をされる。更に、信念を持ってやるべきことをしっかりとやっておられる。決して小さなことでもおろそかにせず、大火も小さな種火から起こることもよく熟知しておられる。一つ一つの判断においても、目先の損得の判断でなく大局的、長期的に見た損得から判断もされ誤りも少ない。三、具体的行動を起こそう。この不況下に増収増益を続け、東証・大証一部に上場しておられるトラスコ中山の中山社長のお話を聴く機会があった。成功の秘訣は徹底したお客様指向で、一秒でも早くお届けする。午前中の受注であれば昼までに、昼から夕方までに受注したものは当日中に届けるべく、各々営業マンが携帯端末を持ちその場からPHSで電送し、会社からすぐ発送される。本業の機械工具以外にも

扇風機から棚・文具、それこそドリンク剤から米まで売られる。良し悪しは別とし、売上を増やすために考えに考え具体的な行動を起こし増収増益を上げておられる中山社長を、是非講師としてお招きしたいと考えている。四、ライフ・イズ・ア・カスタム (人間は習慣の産物である。)

この言葉は今から十二年前に事務所を現在の地へ移転した披露パーティーで、朝日大学村上記念病院、院長の井田和徳先生からいただいた。生まれ育ち、色々な習慣や癖が身につきソフトウェアができる。今年こそ、この不況をチャンスに謙虚に自分自身を、企業を反省し良いところは伸ばす。そして、どうしようもない自分やとても嫌いな自分を、この際徹底的にやっつけ正しい理にかなった方向に命がけて『自己変革』を断行して行こうと思う。お互いに、助け合い励まし合い手とり手合せて、この難局を乗り切って行こうではありませんか。



郵政大臣